

2 アライグマ <食肉目、アライグマ科、アライグマ属>

ア 和名：アライグマ

英名：Raccoon

学名：*Procyon lotor* (Linnaeus,1758)



【アライグマ】

(財) 東京動物園協会提供

イ 和名：カニクイアライグマ

英名：Crab-eating raccoon

学名：*Procyon cancrivorus* (F.Cuvier,1798)



【カニクイアライグマ】

横浜市立野毛山動物園提供

(1) 動物の特徴と同定

ア アライグマ

分布：カナダ南部、アメリカ合衆国、中央アメリカとその周辺の島。

特徴：体色は灰色からほとんど黒色に近いものまであり、被毛は長く下毛は密で、目の周囲から口角にかけて黒いマスク様の部分が見られる。頸部の毛はカニクイアライグマと異なり、前方に向いていない。前肢の指は長く、物をつかむことができ、爪は長く鋭く曲がっている。尾は毛が密に生えふさふさとしており、5～7 条の黒いリングが見られる。

体長：41～60cm

尾長：20～41cm

体重：2～22kg

習性等：

- ・アメリカ大陸に広く分布し、25亜種（Kaufman）が知られているが、バハマアライグマ

(Bahaman Raccoon, *Procyon maynardi*)、トリマリアアライグマ (Tres Marias Raccoon, *Procyon insularis*)、グアドループアライグマ (Guadeloupe Raccoon, *Procyon minor*)、コスメルアライグマ (Cozmel Raccoon, *Procyon pygmaeus*)、バルバトスアライグマ (Barbados Raccoon, *Procyon gloveralleni*, 1964年まで生存確認/絶滅種) の5種類をアライグマとは別種として扱う説もある。

- ・オスはメスより大きく、北に分布する亜種の方が南部のものより大きい。フロリダ産の個体で体重が2.4kg (オス)、アラバマ産の4.3kg (オス)、3.7kg (メス) でウィンスコンシン産の個体では6~11kgで28.3kgの記録もある。
- ・水辺近くのやぶ地などに棲み、木にも良く登り、泳ぎも巧みである。木の実や果実、ザリガニ、カエル、昆虫、小動物や鳥類の卵等を餌としている。
- ・夜行性で日中は木のうろやマスキラットの掘った巣穴を利用している。行動域は広がらないが、266kmを移動した記録も知られている。
- ・群れを作ることは無いが、冬期同じ巣穴で23頭がみられたことがある。
- ・冬眠はしないが、冬期活動せず、巣穴で過ごし、体温も35℃まで下がり、代謝を少なくしている。
- ・妊娠期間63日、1産1~7頭、出産は4月~6月にかけて多く見られる。寿命は13~16年であるが、飼育下では22.5ヶ月の記録がある。
- ・我が国では岐阜県、愛知県、神奈川県、北海道等で野生化している個体が確認されており、北海道では1979年恵庭市で集団脱走後、1995年恵庭市、千歳市、由仁町で定着が確認され、農作物にも被害が拡大している。
- ・移入アライグマの最大の問題は狂犬病ウィルスの媒介であるとされているが (C.Lever)、アライグマカイチュウの問題も指摘されている。

イ カニクイアライグマ

分布：中央アメリカのコスタリカ、パナマから南アメリカ北東部、アルゼンチン北部

特徴：体色は灰色を帯びた黄褐色で、被毛は荒く短い。頸部の毛は前方に向いており、尾は細く 7~8 本の黒色から灰色のリング状の縞が見られる。

体長：60~95cm

尾長：19~41cm

体重：2~12kg

習性等：

- ・後肢の長さは9cmより大きく、アライグマより大きい。爪はまっすぐで幅が広く鋭くない。5亜種が知られている。
- ・メスよりオスの方が大きく、アライグマと同様夜行性で、木の実、カエル、ザリガニ、小動物、魚、鳥の卵等を餌とする雑食性でカニばかり食しているわけではない。
- ・妊娠期間は60日~、1産2~4頭、出産は7月~9月に掛けて見られる。
- ・飼育下では15年10ヶ月の生存記録がある。

- ・我が国では輸入個体、脱柵個体としてアライグマと混じっている可能性があると言われている。

(2) 保定とマイクロチップの埋込み

ア 保定の方法

アライグマ類の成獣は、小～中型犬の大きさである。犬歯が鋭いため、保定時に咬みつかれないように注意する。体重が 10kg を越える個体は力が強く、保定者一人で押さえつけることは困難である。このような個体には化学的保定を選択する。

A 器具を使用しない保定法

体重10kg以下で、人によく馴れている個体なら、イヌの物理的保定が応用できる。安全のため、包帯等で口のまわりを縛ると咬みつかれ防止となる。

B 器具を使用した保定法

人に馴れていない個体は玉網を使って捕獲する。捕獲後、厚手の革手袋か金属メッシュの手袋をはめ、頭の付け根を親指と人差し指でしっかりと確保し、次に四肢を確保する。保定できたら、玉網と一緒に、あるいはアライグマを網から出して、診療台やマットの上に横臥させる。

小型スクイズ・ケージが利用できるなら、スクイズ・ケージにアライグマを導入し、ケージの可動壁を手前に引き寄せ、動物が動かないように固定する。



【器具を使用した保定法】

C 特に注意すべき事項

マイクロチップの埋込み可能時期は離乳後（生後4ヶ月）を目安とする。

麻酔薬は、筋肉内に投与できる薬を選択する。ケタミン10～30mg/kg 筋注、ケタミン10mg/kg 筋注 + ジアゼパム 0.5mg/kg 筋注、ケタミン2.5～5mg/kg 筋注 + メドトミジン 25～50 μg/kg 筋注などの組み合わせで不動化効果が得られる。

玉網でアライグマを捕獲し、網の上から咬みつかれないように頭を保定したうえで、筋肉量の多い臀部筋肉に投与する。麻酔中の管理は、呼吸数、体温、心拍数をモニターするなど定法に従う。

イ マイクロチップ埋込みの方法

A 埋込みの部位

左右の肩甲骨間皮下にマイクロチップを埋め込む。

B マイクロチップ埋込みの実際

玉網に入れたままマイクロチップを埋め込むときは、床上で、頭の付け根をしっかりと持って横臥姿勢とし、網の目から注入器の針を左右の肩甲骨間に刺入する。診療台にのせることができるなら、頭の付け根をつかみ横臥姿勢とし、注入器の針を上記皮下に刺入する。

刺入部位はイソジン綿か70%アルコール綿で消毒し、マイクロチップ埋込み後は、刺入部に外科用接着剤を塗布してマイクロチップの脱落を防止する。

C 特に注意すべき事項

物理的な保定を行うとき、顔に布をかぶせて目を覆うと動物が落ち着く。しかし、顔の表情が見えなくなるので、呼吸をはじめ、全身状態を目で確認しながら実施する。